

愛知県内におけるアマゾントチカガミの記録

中村 肇

名古屋自然史談話会

Distribution survey of *Limnobium laevigatum* in Aichi, Japan

Hajime NAKAMURA

Nagoya Natural History Society

Correspondence:

Hajime NAKAMURA E-mail: nakamura@tameike.info

はじめに

アマゾントチカガミ *Limnobium laevigatum* (図1) は南米を原産とするトチカガミ科の浮遊植物で、観賞植物として流通している個体が各地で逸出している(角野, 2014).

日本国内における分布情報は、山ノ内ほか(2021)によって集約され、この報告に合わせて、筆者が私蔵する



図1. アマゾントチカガミ (栽培個体)

アマゾントチカガミの標本を再確認するとともに、愛知県内における文献情報(中村, 2016, 2017; 中西, 2017)を確認した。

本稿では、中村(2016, 2017)の一部を訂正するとともに、山ノ内ほか(2021)で未発表の情報など、愛知県内におけるアマゾントチカガミの記録について報告する。なお、アマゾントチカガミ(アマゾンフロッグピット)は浮葉が矮小化する個体を『ドワーフフロッグピット』ととして区別されることもあるが、本調査においては同一種として取り扱う。

材料と方法

2020年10月から2021年8月にかけて、筆者が私蔵するアマゾントチカガミの標本、および文献などで生育地が判明している地点について、可能な限り追跡調査を行った。調査においてアマゾントチカガミが確認された場合には腊葉標本作製した。

結果および考察

本調査において、筆者が私蔵する標本情報から3地点、文献情報から2地点、合計5地点が愛知県内における分布情報として得られた(表1, 図2)。なお、中村(2016)がアマゾントチカガミとして同定した標本の重複標本を再確認したところ、トチカガミ *Hydrocharis dubia* の誤同定であると判明した。この標本については、本稿に合

表 1. 愛知県内におけるアマゾントチカガミの分布記録

地点	地名	筆者が記録する標本	文献	備考
1	愛知県名古屋市緑区	No. 1069 (2015. 10. 26) No. 2349 (2017. 06. 04) No. 2305 (2020. 10. 11) No. 2333 (2020. 12. 20)	中村 (2017)	少なくとも 2015 年以降存続
2	愛知県名古屋市中川区	No. 119 (2012. 09. 28) No. 1143 (2015. 02. 27) No. 1100 (2015. 08. 16)	中村 (2017)	中村 (2017) の採集地情報に誤りあり 2020 年 10 月には消失を確認 2021 年 6 月の調査時にも確認できず
3	愛知県名古屋市北区	No. 2306 (2020. 10. 29) No. 2340 (2020. 11. 22)	山ノ内ほか (2021)	2021 年 6 月の調査時には確認できず
4	愛知県豊橋市		中西 (2017)	2020 年 10 月の調査時には確認できず
5	愛知県刈谷市		山ノ内ほか (2021)	2018 年 3 月～ 8 月の調査時には確認できず
除外	愛知県名古屋市中区	No. 289 (2013. 06. 12) No. 546 (2013. 10. 13) No. 759 (2014. 08. 30)	中村 (2016)	トチカガミの誤同定

わせて再確認することが望ましいが、文献情報と紐づけされた標本を直接確認する機会が得られなかったため、筆者が私蔵する重複標本と同一とみなし本調査の分布情報から除外する。

愛知県名古屋市緑区 (表 1 : 地点 1) は、少なくとも 2015 年以降アマゾントチカガミが存続し、葉の大きさが 2 ~ 5 cm と変異に富み、抽水葉を密生させている場所ほど大きくなる傾向にあった (図 3 ~ 5)。同所環境には、ヨシ *Phragmites australis* やヒメガマ *Typha domingensis*

などが生育している。

愛知県名古屋市中川区 (表 1 : 地点 2) は、2012 年および 2015 年にアマゾントチカガミの生育を確認したが (図 6)、2020 年および 2021 年の調査では確認できなかった。この地点では、農業用水路に限らず、隣接した水田内でも密生した抽水葉が確認された (図 7)。この地点において消失した原因は、アマゾントチカガミが群生していた農業用水路の改修が行われたためと推察される。

愛知県名古屋市北区 (表 1 : 地点 3) は、2020 年 10 月

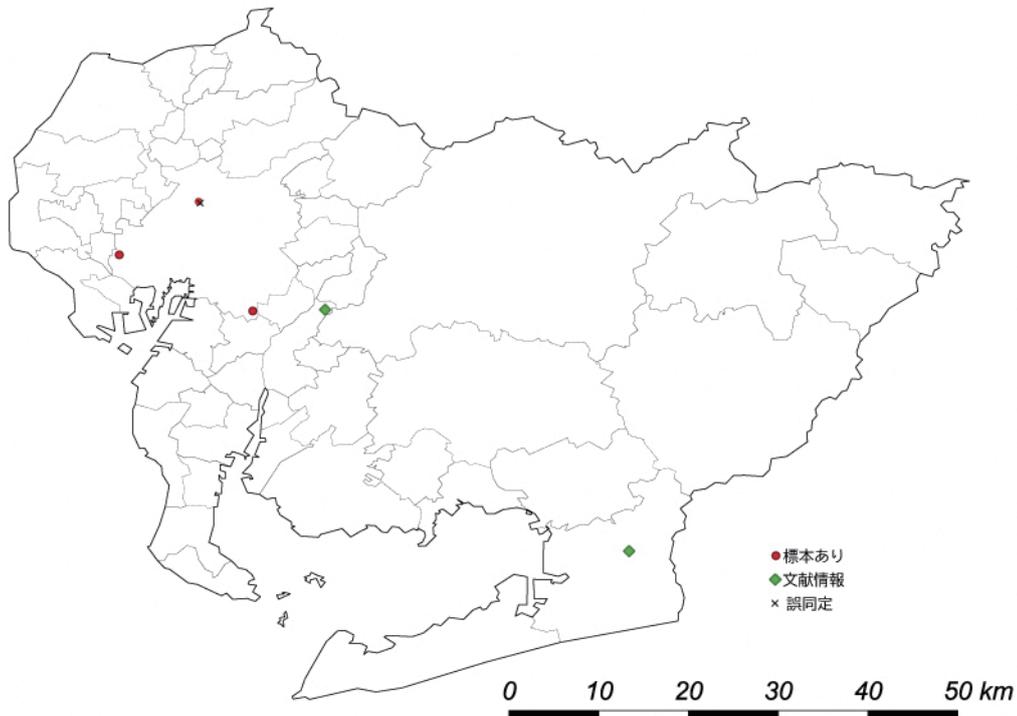


図 2. 愛知県内におけるアマゾントチカガミの分布記録



図 3. 愛知県名古屋市中緑区で採集したアマゾンチカガミの標本 (2017年6月)

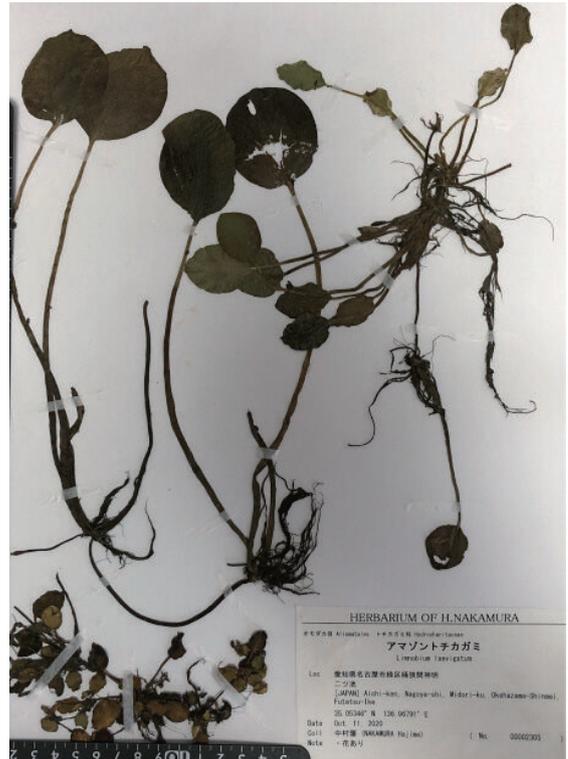


図 4. 愛知県名古屋市中緑区で採集したアマゾンチカガミの標本 (2020年10月)



図 5. 愛知県名古屋市中緑区におけるアマゾンチカガミの生育環境 (2021年5月)

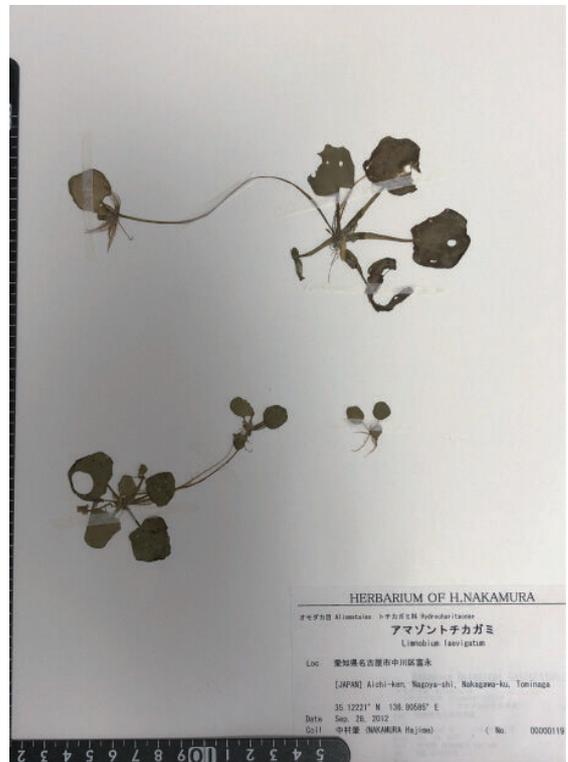


図 6. 愛知県名古屋市中川区で採集したアマゾンチカガミの標本 (2012年9月)



図7. 愛知県名古屋市中川区におけるアマゾンチカガミの生育環境 (2015年8月)

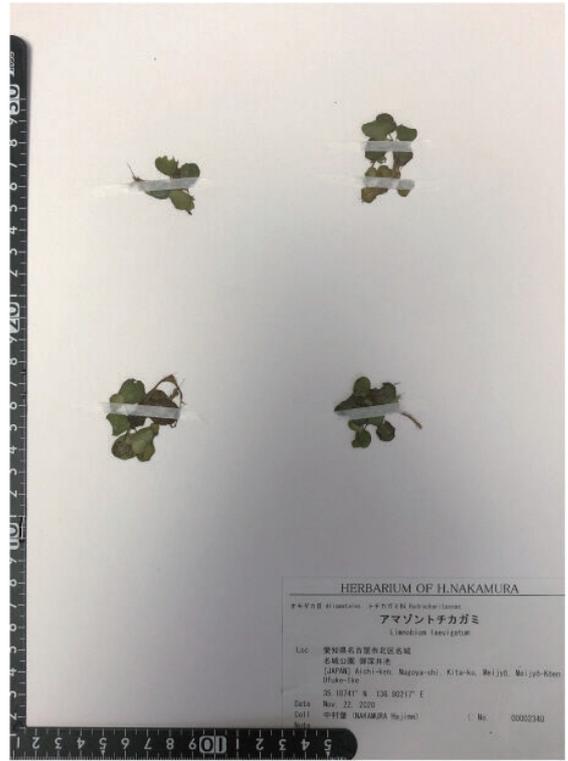


図8. 愛知県名古屋市区で採集したアマゾンチカガミの標本 (2020年10月)

にアマゾンチカガミの生育を確認したが (図8), 2021年の調査では確認できなかった。同所環境には、ニシノオオアカウキクサ *Azolla filiculoides*, ヨシ, オオフサモ *Myriophyllum aquaticum* が生育している。

愛知県豊橋市 (表1:地点4) は, 中西 (2017) によると2010年から断続的にアマゾンチカガミの生育が確認されているが, 筆者が2020年10月に現地調査した際には確認できず, 2021年は未調査である。

愛知県刈谷市 (表1:地点5) は, 山ノ内ほか (2021) によると2010年にアマゾンチカガミの標本が得られているが, 筆者が2018年3月から8月に実施した調査 (中村, 未発表) ではアマゾンチカガミの生育を確認できず, 2021年の調査でも生育を確認できなかった。この地点においてアマゾンチカガミが消失した原因は, ため池の改修工事に起因するものと推察される。

本稿は, 筆者の日々の調査で得られた断片的な情報の集約のため調査地域に偏りがあり, 愛知県内全域におけるアマゾンチカガミの生育情報を網羅しているとはいえない。しかし, 断片的な情報の蓄積であっても, それ

らが集約されることで新たな研究へと繋がっていくため, 継続した調査の重要性を改めて考えていきたい。

引用文献

- 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草日本の水草. 文一総合出版, 東京. 326pp.
- 中村肇. 2016. なごや生物多様性センター収蔵植物標本目録 (2). なごやの生物多様性, 3 : 95-106.
- 中村肇. 2017. なごや生物多様性センター収蔵植物標本目録 (3). なごやの生物多様性, 4 : 127-147.
- 中西正. 2017. 豊橋市水神池の水草群落の20年の変化. ため池の自然, (58) : 11-19.
- 山ノ内崇志・青木雅夫・伊藤玄・岩崎朝生・香川植物の会・片桐浩司・加藤将・上赤博文・木村雅行・栗林実・白土智子・杉山昇司・外山史也・中村俊之・中村肇・森小夜子・安武由矢・藪内喜人. 2021. 水草研究会メーリングリストを通じた市民科学的手法によるアマゾンチカガミ野生化記録の集約. 水草研究会会誌, (111) : 79-96.